

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
静と動をわきまえた児童が笑顔で集う学校	①学びあう学校 基本的授業力を高め、静かに学びあう心と力を育む。 ②育ちあう学校 職員と地域の方の目配りによる安心感のある学校を構築する。 ③鍛えあう学校 食と健康を意識させ、地域とともに心身を鍛え活かす心を育む。 ④育てあう学校 家庭・地域・保育園・中学校とともに社会を生きる力を育む。

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価						
①学びあう学校 基本的授業力を高め、静かに学びあう心と力を育てる。						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分 掌(部)	担当者
学校運営	●学力の向上	全教員の基本的授業力の向上 学びあう児童の育成	・全教員の授業力を向上させるために朝日小授業作り十箇条アンケートを年に2回実施したり、理科専科教員からの専門的助言の場を設定したりする。 ・基礎基本の学力の定着と学び合う児童を育てるために、自分の考えをもち、友達と関わり合って、進んで話し合い活動に取り組ませる。	・アンケート結果を公表したり、各自が1年間意識化して授業に取り組んだりする。 ・「静」の時間を意識し、立腰・話の聞き方・基礎基本の定着の校内研究に取り組み、指導方法の工夫改善を図る。 ・算数学習ノートに取り組み、基礎的・基本的な力を育成する。	研究部 学習部	山崎 小川
教育活動	●志を高める教育	自分の夢や目標を持ち、実現に向けて努力できる児童の育成	・将来の夢や目標をに向け努力する気持ちを持っている児童を80%以上にする。 ・ふるさと朝日や武雄、佐賀を肯定的に考える児童を90%以上にする。	・将来の夢や目標を考える活動を各学年で設定する。 ・ふるさと朝日や武雄、佐賀を誇らしく感じることができる学習活動を各学年で年間に1活動以上設定する。	教務	山崎
教育活動	○ICT機器の活用	ICT機器を最大限に引き出す指導方法の工夫	・ICT機器の効果的な活用のために、1ヶ月学級あたりの電子黒板、タブレットPC等の利用時数を20時間以上を目標に実践する。	・電子黒板、デジタル教科書、タブレットPC等ICT機器の効果的利活用により、児童の興味関心を高め理解を深める。 ・ICT推進員と連携を図り、スマイル学習実施一覧表を配付し、互いに実施するように声かけをしていく。 ・総合的な学習などで学んだことをペッパーにプログラミングし、動く喜びを味わわせる。	情報化 推進し 教務	山下 山崎
②育ちあう学校 職員と地域の方の目配りによる安心感のある学校を構築する。						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分 掌(部)	担当者
学校運営	●いじめ問題への対応	いじめのない学校作り	・「学校が楽しい」と思う児童を100%にするために、いじめアンケート、日常の観察を実施し、臨場指導による一人一人への目配り・気配りを徹底したり関係機関との連携を図ったりする。	・くらしのアンケート、いじめチェックリストで実態を把握した上で教育相談を実施したり、職員連絡会で生徒指導関係についての共通理解を図ったりし、個に対応することでいじめ問題を未然に防ぐ。 ・いじめの定義(改正)を周知し、覚知・認知をすぐに行い、対策委員会を開く。	生徒指 導部	中尾 中村
教育活動	●心の教育	道徳的実践力の醸成	・日常的な「静」の時間を意識させるために、授業における礼儀の徹底や朝の挨拶当番、掃除などを徹底する。 ・考える道徳・議論する道徳を実施するために、ふれあい道徳などの授業公開を年1回以上行う。	・落ち着いた学校生活を送るように1日2回の静寂な時間を作る。 ・学級毎に輪番制による挨拶運動に取り組む。 ・清掃時に無言掃除の徹底を図る。 ・道徳的価値の理解をもとに本質に迫る発問を行い、自分事として考える授業を構築する。	生徒指 導部 道徳教 育推進 し	教頭 中尾 島
教育活動	○特別支援教育	特別支援教育と教育相談の充実	・児童の特別支援教育と児童・保護者の教育相談を充実させるために、校内支援委員会と教育相談・特別支援教育部会を月1回程度実施する。	・家庭環境配慮児童について主任児童委員会などで支援の充実を図る。 ・校内支援委員会を中心に体制づくりに努め、全職員による児童理解と支援を行う。 ・定期的な保護者との面談を行い、家庭や専門機関との連携を図る。 ・個別の支援計画・指導計画を活用し、支援の実施・評価・引継ぎ等を確実に行う。	特別支 援教育 部	校長 教頭 中尾
③鍛えあう学校 食と健康を意識させ、地域とともに心身を鍛え活かす心を育む。						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分 掌(部)	担当者
教育活動	●健康・体づくり	元気な子どもを目指した健康・体力づくり	・地域とともに心身を鍛えるために、進んで体力づくりに取り組む児童80%以上を目指す。また、マナーを身につけ、給食時間が楽しいという児童を80%以上にする。	・各学年で体育の時間や休み時間に1種目以上「スポーツチャレンジ」に取り組む。 ・給食の臨場指導と食育指導を推進する。 ・保健だよりや食育だよりにより家庭への啓発に努める。	保体部	平川 藤田 桑原
④育てあう学校 家庭・地域・保育園・中学校とともに社会を生きる力を育む。						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分 掌(部)	担当者
学校運営	○開かれた学校づくり	コミュニティスクールを中核とした地域と共に歩む学校体制の構築	・学校運営協議会を中心として校区内の各団体との連携を強化する。	・地域学校協働本部やAスタと子育て意識を共有し、子どもの居場所作りを推進する。 ・保育園や中学校と連携した基本的生活習慣・学習習慣の形成を図る。 ・学校安全見守り隊と連携した安全な登下校を確保する。 ・学校と地域の教育力を十分発揮できるよう、教育課程に地域人材を効果的に取り入れる。また、地域行事への積極的な参加を推進する。	CS	校長 教頭 山崎
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分 掌(部)	担当者
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	行事等の精選と教職員の多忙感の減少	・全職員が働き方改革を意識化し推進するために行事や業務の見直しを図り、スリム化する。また、定時退勤推進日を金曜日や休日前とし、定時退勤の徹底を図る。	・電子化による提出文書等の簡略化を図る。 ・行事を見直し、スリム化・一体化を探り、実行する。 ・定時退勤日に、互いに声を掛け合い、早く帰るように促す。	管理職	教頭

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目